

抗 Rpn12 (*S.cerevisiae*) 抗体, ウサギポリクローナル

62-209 50 µl

保存: 4°Cまたは -20°Cで送付、-20°Cで保存

免疫原: 大腸菌に発現させたリコンビナント酵母 Rpn12

形状: Affinity purified IgG in PBS-, 1 mg/ml BSA, 0.09 % sodium azide, 50% glycerol

反応性: *S. cerevisiae* Rpn12 他の種については試されていない。

用途:

- 1) ウェスタンブロッティング (1/5,000~1/10,000 希釈)
- 2) 免疫沈降

その他の用途は試されていない。

背景: プロテアソームはユビキチンで修飾されたタンパク質を分解する酵素である。ピキチン-プロテアソームによる分解システムは、傷害を受けたりミスフォールドしたタンパク質を除去するのみならず、細胞周期制御、免疫応答、シグナル伝達といった細胞内の様々な働きに関わっている(文献 1)。活性型の 26S プロテアソームはタンパク質分解実行ユニットである 20S プロテアソームの両端に、それを制御する 19S 複合体が会合した巨大な分子複合体である。19S 複合体はさらに base (基部) と lid (蓋部) に分けられる。**Rpn12** は lid の non-ATPase サブユニットのひとつで、基部の ATPase サブユニットである Rpt1 と相互作用する。**Rpn12** と Rpt1 の二重変異株では致死的となり、**Rpn12** と Rpt1 の強い相互関係が示唆される。**Rpn12** と Rpt1 の二重変異株では 26S プロテアソームの機能が完全に阻害される。

データリンク: SGD [RPN12/YFR052W](https://www.yeastgenome.org/locus/RPN12)

文献: この抗体は文献 2 で用いられた。

1. Hershko A and Ciechanover A "THE UBIQUITIN SYSTEM." *Annu. Rev. Biochem.* **67**, 425-479 (1998) PMID: [9759494](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/9759494/)
2. Takeuchi J and Toh-e A "Genetic evidence for interaction between components of the yeast 26S proteasome: combination of a mutation in RPN12 (a lid component gene) with mutations in RPT1 (an ATPase gene) causes synthetic lethality." *Mol Gen Genet* **262**:145-153 (1999) PMID: [10503546](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/10503546/)

Related products: [# 62-201 anti-Rpn3](#), [#62-203 anti-Rpn5](#),
[#62-205 anti-Rpn7](#), [#62-207 anti-Rpn9](#), [#62-211 anti-Nob1](#),
[#62-213 anti-Nas6](#), [#62-215 anti-Tem1](#)

図 1 *S. cerevisiae* 粗抽出液でこの抗体を用いたウェスタンブロッティングを行い、Rpn12 (32kD) を検出した。

